

平成 19 年 11 月 21 日

## 学術ポータル担当者研修レポート

所属機関名 東京慈恵会医科大学

受講者番号 11-1 阿部信一 (学術情報センター図書館・情報管理係, 情報サービス係)

11-2 斎藤えりか (学術情報センター図書館・編集室)

11-3 森田奈津子 (学術情報センター図書館・システム計画係)

### 発表資料の状況設定

東京慈恵会医科大学(以下、本学)において、機関リポジトリ事業に関する共通認識を持つよう、学術情報センター(以下、当センター)が中心となり、関連部署との情報交換および協議を通して、構築・稼動に向けた体制を確立する。また、今後の学内における広報・啓発や現在進行・計画中の関連事業との連携を図る。

### 発表内容抄録

機関リポジトリを構築する意義として、研究成果の効果的な発信、大学の社会に対する説明責任の履行、研究者・大学の知名度の向上、卒業生・学外医療従事者・医学研究者とのコンテンツを共有すること、教職員への教育・研究用コンテンツ蓄積とその公開環境の提供などがあげられる。本学の機関リポジトリ構築に向け、初年度の目標は、紀要(東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal)へのアクセス性の向上、教育用資料や e-learning 教材、各種データベースや電子ジャーナル利用マニュアル、大学歴史資料など学内作成コンテンツの統合的管理とし、さらに次年度以降では教職員への教育・研究用コンテンツ蓄積と公開環境の提供、卒業生・学外医療従事者・医学研究者とのコンテンツ共有が可能となる環境を整備していきたい。そのため、関連部署の理解と協力を得て、システム構築、コンテンツ作成・管理手順を確立し、新たな学術情報基盤の構築を進めることをめざす。

### 研修当日の講師からの助言(模擬質疑応答)

- ・研究支援課の立場より

この事業は研究支援課の管轄内容のようであり、こちらで担当したい。

→研究業績等は当センターで収集・提供している。かかる事業において、研究支援課とは関連深い内容であるので、連携・協力して進めていきたい。

- ・教育センターの立場より

e-learning のコンテンツを収録するためには、どのようにしたらいいか。

→生命倫理的配慮や著作権法など注意が必要であり、チェック項目や方法など協議させていただきたい。

- ・教員の立場より

主旨は理解したが、多忙のため、煩雑な登録作業等に時間と手間をかけられない。

→コンテンツの内容や方法などについてはご相談させていただきたい。

- ・(質問として)

研究業績データベースとの連携をどのように計画しているか。

→次年度以降の懸案事項である。

## リハプレゼンの概要

日 時：平成 19 年 11 月 13 日（火）13:30-14:00

平成 19 年 11 月 14 日（水）13:30-14:00

場 所：当センター図書館 2 階事務室

発 表 者：阿部信一

発表対象：当センター職員

参加人数：11 月 13 日 7 名 11 月 14 日 7 名

## リハプレゼンへの反響

おおむね理解ができた、との評価を受けたが、次のような質問・指摘を受けた。

- ・引用の高い論文でデジタル化されていない場合は、PDF 化して収録するのか？

→今後の機関リポジトリの登録対象については、来年度以降の検討事項である。

- ・自分でホームページを構築し、研究成果を発信している研究者がいるが、それらへの対応はどうか？

→ピアレビューを経た研究成果物であれば、機関リポジトリへの登録が考えられる。生データやアイデアのような、査読を経していないコンテンツは、機関リポジトリの登録対象には適応しないと考えられる。今後の検討事項の 1 つとしたい。

- ・アクセス数など統計的なデータはわかるのか？

→リポジトリのシステムにもよるが、論文ごとのアクセス数、ダウンロード回数のカウント機能を設定すれば可能である。

- ・どのような権利処理が必要か？

→リポジトリに登録する前に、著作権をもつ出版社や学会などの許諾を得る必要がある。著者がとる場合や機関リポジトリ担当者が代行する場合など各機関により様々な方法をとっている。また、機関リポジトリに登録することについて全著者の許諾も必要になる。

- ・プレプリントサーバの役割をするものなのか。また、退職した研究者のコンテンツはどのように対応するのか？

→プレプリントサーバとしての役割については検討課題とする。退職者のコンテンツは、本学での研究成果なので登録しておきたいが、様々なケースが想定される。

- ・「医学図書館」誌に発表した論文があるのだが、登録可能か？

→「医学図書館」は発行者である日本医学図書館協会が、著者の所属する機関リポジトリへの登録を認めているので、条件である掲載当該号の次の号が発行されたら登録できる。

ただし、職員の成果物も登録対象とするかは今後の検討事項である。

・卒業論文（看護学科）は掲載するのか？

→卒業論文は研究テーマとして、また大学の記録として登録する価値のある成果物と考えられるが、内容によっては著作権法や個人情報保護法などとの関係、また研究自体の完成度など検討を要すると考えられる。

## その他

当センター職員を対象に、機関リポジトリについてプレゼンテーションを行った。共通認識を持つことができ、有意義なリハーサルが行えたと考える。今回の指摘点を元にさらに検討を進め、機関リポジトリの担当委員会や運営指針の作成など準備をしていくことに反映させたい。また、学内への理解を得るために、関連部署をはじめ、図書館委員会、標本館委員会、編集委員会などの各種関連委員会への説明の機会を重ね地道に活動していく予定である。

本学では、学祖高木兼寛が成医会講習所（本学前身）の機関誌を1885年に創刊した傍ら、有益な知見を海外に向けた発表の意義を踏まえ、その英文版である「**Transactions of the Seikwai. English supplement**」に脚気予防に関する歴史的な知見を発表した。また、1954年に現在の英文誌である **Jikeikai Medical Journal** が創刊され、この創刊号に名取禮二生理学教授（当時）が筋収縮機構に関する画期的な報告を寄稿、現在も多くの引用を得ている。このような本学に120年来脈打つ精神を受け継ぎ本学の機関リポジトリ構築にあたりたい。